

令和 8 年熊本地震に係る
第 2 回政府非常災害現地対策本部会議
第 9 回災害対策本部会議 議事録

日時：令和 8 年 8 月 1 日（土） 9：30～

会場：県庁防災センター 2 階 災害対策本部会議室

1 開会

2 議事

（1）地震状況の説明

別紙「気象台資料」により説明（熊本地方気象台）

（2）県からの報告

別紙「各部説明資料」により説明（各部長等）

（3）国からの報告

①総務省

熊本県内 6 市町に対し 49 市 533 名が対口支援チームとして決定。順次被災地での避難所運営等の支援を行う。

②国土交通省

現地応急給水支援本部で関係機関が連携し対応中。特に医療機関については現在対応している自衛隊に加え、九州地方整備局と中部地方整備局の 4 台と日本水道協会の 2 台、計 6 台を追加し医療機関からのニーズに対応。北海道開発局、関東地方整備局のほか日水協を通じて全国の自治体から給水車の応援増強を実施中。

テックフォースは復旧フェーズに入るため、昨日の 4 倍の体制で対応していく。

③経済産業省

電力については昨日高圧線の送電が完了。各家庭の引き込み線について相談窓口を設け早期復旧を図る。

ガソリンは八代油槽所を活用し、供給力は 4 倍になっている。営業店舗を増やすことが重要だが、八代市、氷川町では、営業店舗が 31 店舗から 47 店舗へ増えた。

熱中症対策が重要と考えており、プッシュ型支援でもスポットクーラーの提供及び水の配送について、万全を期して対応していく。

④陸上自衛隊

昨日はイオンモール熊本における人命救助をはじめ、病院・避難所における給水活動、救援物資輸送、人工透析患者の輸送等を実施。また護衛艦「いせ」からオスプレイによって救援物資の輸送を実施。18 時から 22 時まで熊本市南区城南町で入浴支援を実施し、男性 132 名、女性 127 名、合計 259 名に利用いただいた。

本日は、警察、消防と連携したイオンモール熊本における人命救助活動として、

航空自衛隊からの救助犬を導入した一斉搜索を実施。給水支援、入浴支援、救援物資の輸送等を継続して実施する。入浴支援については 18 時から 22 時で実施。

⑤海上保安庁

本日も八代港、三角港での給水支援を継続。30 日から三角港停船中の船の浴室を開放して入浴支援を実施しているが、八代港着岸中の船でもできるように関係機関と調整中。調整が整えば本日から開始したい。

(4) 関係機関からの報告

①九州電力

7 月 31 日の 16 時 44 分に高圧配電線の送電が完了。正確な数は把握できないがスマートメーターの確認ができないのが約 6000 件。ただし、倒壊家屋や通信障害も件数に含まれているため、現場確認のうえ復旧を進めていく。復旧は九州全機関が集中して取り組んでいるところ。停電に関する留意点はホームページやアプリでも確認いただきたい。

②日赤

現在コーディネートチーム 3 隊、救護班 9 隊で活動中。8 月に宇城保健所管内に 6 隊の救護班、八代保健所管内に 6 隊の救護班を本社に依頼している。

避難所のアセスメントを進めており熱中症予防の支援やベッド配置の支援ができればと考えている。

③緊急消防援助隊

本日も 69 隊 230 名体制で警察、自衛隊と協力し、イオンモール熊本での救助活動を実施する。救急隊については特別編成部隊を編成し、熊本労災病院において DMAT と連携し 10 隊 30 名の救急隊員を配置。

3 災害対策本部長（木村知事）からのコメント

別紙「本部長（知事）コメント」のとおり

4 現地対策本部長（津島副大臣）からのコメント

皆様、お疲れ様でございます。

熊本県庁の皆様には連日のご対応、本当にお疲れ様でございます。

また、県民の皆様にも我々の支援活動にご理解をいただいていることに、対策本部長として、この場をお借りして感謝を申し上げます。

しかし、引き続き全力を挙げて取り組んでいかなければいけないということも、当然のことでございます。そのことを改めて皆様にお伝え申し上げたいと思います。

国の関係機関、応援に入っている関係機関の皆様、本当にありがとうございます。全力を挙げてこれからも取り組んで参りましょう。

目下のところ課題は、この酷暑をいかに乗り切るかです。まず熱中症予防、それに加えてエコノミークラス症候群を予防することです。

木村知事からお話がありました 3 つのポイント、飲料水、トイレ環境、空調改善、この 3 つの重要なポイントは認識を共有するところです。

飲料水については、より多く調達を集積拠点へ仕向けるように取り組んでおります。

トイレについては、衛生環境が良くないところに増備することとし、また空調、スポットクーラーを経産省主導で増備をいたしております。

それぞれの配送については、緊急性の高いところに国がラストワンマイルまで責任を持って取り組むことといたしております。

着実に届けること、被災者の皆様が、支援が届いたと実感していただける、そのことを任務の完了と考えて取り組んで参ります。

また、今後インフラの復旧ということにも全力を挙げて取り組んで参ります。国交省を中心に、テックフォースもフル稼働して参ります。

また、自治体の事務も様々な業務が始まって参りますので、総務省を中心に応援職員ということも務めて参ります。

初動が大切という木村知事の言葉、そのとおりでございます。その認識を共にし、国、関係機関、これからの様々な状況に臨機応変に対応し、先手先手で先を見据えた対策を進めて参ります。

県の皆様とも引き続きより強固な連携で1つのチームとして、この難局を乗り切って参りましょう。

県民の皆様に、この酷暑を乗り切るために我々全力を尽くします。

しかし皆様にも、ご自身の健康を守るため、命を守るため、熱中症予防、エコノミークラス症候群防止のために、できることに取り組んでいただきたいと思います。無理のない程度で構いません。きついとお感じになったら我慢せず声を上げていただきたいと思います。

特にちょっと体調がおかしいなと思ったときに、周りの人にまず声を上げて欲しい。ぜひそのことをお願い申し上げます。

国、県挙げて全力でサポートして参ります。